

ぐ どう 伝えて下さい、  
三つの心を

# 弘道

「伝えて下さい、み仏を敬う心を」

「伝えて下さい、ご先祖を大切にすることを」

「伝えて下さい、お寺参りの心を」

～日蓮宗埼玉県檀信徒協議会～



## 平和祈願法要 大祈禱会

修法師会（加藤貴和会長）による平和祈願法要並びに大祈禱会が平成十九年二月二十日、川越市の妙昌寺（沼田正順住職）において開催されました。ときおり小雨が降るあいにくの天候でしたが、僧侶・檀信徒併せて百八十名が参加しされました。法要に先立って、青年会会員による唱題行脚、昨年より厳冬寺五日間の荒行を積んだ加行僧五名による水行、埼玉県法華和讃奉詠会による和讃の奉詠などが行われ、その後本堂に於いて加藤会長を導師に管内修法師による平和祈願法要並びに大祈禱会が厳修されました。この日、川越の町はお題目の音が響き、立正安国のお祖師さまの願いで包まれました。

### 「大荒行会と荒行の心」

常薫寺檀徒 吉田卓治さん  
大祈禱会が二月二十日、川越市妙昌寺で開催され、常薫寺の奥さまが野道さまと私を一緒にして下さいました。  
午後二時、玄題旗を先頭に五

人の加行僧と共に編み笠と白鉢巻姿の青年会の一団が団扇太鼓を響かせ山門に姿を現しました。参道の両側の檀信徒一同は一齐にお題目を唱え一行をお迎えしました。一行は、市内の宗門四ヶ寺に参詣、行脚して来られたのでした。



加行僧方はお題目と団扇太鼓が誦されるなか、筵（むしろ）が敷かれた階段を上って本堂へ入られました。

水行場は日蓮聖人の銅像が建つ本堂下の境内に設けられ、幣束の下った注連縄が張られた竹が四隅に立ち、菰（こも）包みで水が満杯の大きなポリ容器が五ヶ置かれていました。二時三十分、加行僧方がお題目を唱え

ながら水行場に到着し羽織っていた襦袢を控えの方に渡し下帯姿になって直立なされ、やおら腰を屈め、水行肝文をお唱えなされました。手桶の水で体を濡らし立ち上がって両手で桶を頭上にかかげ掛声勇ましくザンブと頭上からかぶり十五回程繰り返されました。其の後再び腰を屈め肝文を短くお唱えなされ礼拝し、襦袢を身にまとい濡れたまままで本堂へ戻られました。

当日は曇り空で風が冷たく冬支度でも寒い程でした。大荒行堂に入行致しますとこの水行を一日七回、然も百日間続けなされた上、粗衣粗食、ひたすら読経と水行に精進なされと承りました。

佐野伝師さまは「百日の結界で求めるもの、それは仏の実在性」また「念力、経力、仏力そして福徳力」と仰せられております。荒行を志すお上人さまは既に立派な教師であり日夜私達をお導き下さっております。伝師さまのお言葉を考えると荒行で得られる諸々の力で私達の悩みや体の苦しみを救い、仏さまの慈悲—法華経の心—を施したいとの一念で決意なされたと存じます。伝授された秘法が修法師の行う加持祈祷であります。

成満し、伝師から秘法の伝授後、伝主から許証を頂き宗務総長の任命を受けて晴れて修法師となられます。加持祈祷により仏の慈悲が檀信徒から他者へと広く及ばされて、人々は健康で仕事に励み、世の中も穏やかになるものと思えます。

この日、私は共に唱題しながら、肩や脊に加持祈祷して頂きましたところ疲れもとれ晴れ晴れとした気持ちでした。大祈禱会に参加でき感謝申し上げます。

### 「大祈禱会に参加して」

本応寺檀徒 上野とよ子さん  
大祈禱会に参加させて頂き、心よりお礼を申し上げます。

今年は暖冬の為か、梅の花も咲き暖かな日々が続いています。しかし、大祈禱会が行われた二月十日の気温は十度。皆さんコートを着込んでのお祈りとなりました。

本応寺を出発した青年会の一は行伝寺・妙養寺を経て妙昌寺へ。行脚の太鼓・お題目は町中を賑やかに通り過ぎて行きました。

老百日の荒行をご成満なされましたお上人さまの水行式は寒さを吹き飛ばすほど、迫力ある

ものでした。水行と一言で申しましても、並大抵な事ではないとお察し致します。ご成満を迎えられました、本当におめでとうございます。



和讃奉詠は、太鼓の音、朗詠に聞き惚れてしまいました。私も一緒にと思いましたが、声を出さずに終わってしまいました。さらに、各寺院のお上人さまによる世界平和祈願・大祈禱会は、本堂がはち切れぬばかりのご祈禱をして戴き、ありがたく思いました。更に身体に触れてのご祈禱を授かり、本堂にもつたいたなく心からお礼申し上げます。私事になりますが、一言失礼させて頂きます。実は同日の午





前中に、川越のゲートボール大会がありました。そして私達のチームも参加をして、結果三戦三勝しました。午後二時から行われる大祈禱会の事が、気に成りながらの試合でしたが、お題目を唱え、心を落ち着かせて、競技に望みました。この勝利は、正しく日蓮大聖人さまのお力添えありきと、感じております。

今の私の楽しみは、お寺と蓮の会の皆さんと集い、食事を共にすることです。又月二回のお経の会に参加して、一人でも多くの人と触れ合って、お寺にお仕えしたいと思えます。そして来年もまた元気に大祈禱会に参加させて頂きますので、宜しくお願い致します。

大祈禱会の会場寺院の川越妙昌寺さまには、本当にお世話に成りました。勉強に成りました。有り難うございました。

### 「大荒行成満帰山奉告式」

性蓮寺檀徒 福居一夫さん

仏祖三宝のご加護により雲ひとつない晴天に恵まれた二月十一日、私どもの菩提寺である性蓮寺副住職関根教樹上人の帰山奉告式が挙行されました。共に大荒行を成満なされた嶋田教要上人(東京)大平貫脩上人(佐賀)沼田洋順上人(埼玉)小林榮樹上人(茨城)古山崇道上人(埼玉)岡村恵信上人(茨城)徳永昌要上人(茨城)の七名のお上人さまをお迎えし、大勢の檀信徒参集のもと盛大裡に行われました。

十時三十分、大荒行の寒老百日のあいだ生命を託した鬼子母尊神さまと共に行列がみずほ台駅より出発。総代が先導し成満旗がご成満なされた八名の清僧のまわりを囲み、お題目と太鼓の響きわたるなか、性蓮寺に向かつて歩を進めました。途中、行列にカメラを向ける人やお上人がたに合掌する市民も見受けられ、十一時性蓮寺に到着しま

した。

十一時二十分、水行の開始を告げる「鳴き」の音が力づくよく境内に響きました。多くの檀信徒が見守る寒風のなか水行が行われました。加行を積まれた八人の身体から立ち昇るあたたかも白煙のような湯気は何か天に昇ってゆくようにも見え神々しさが感じられたのでした。

本堂において、帰山奉告式が厳肅に執り行われ、関根教樹上人に「認證」が伝授され、第再行の責任者として職務を全うしたことに對し、「感賞状」が授与。ご来賓各位のお祝辞を賜り、関根教沅住職とご本人の謝辞があり滞りなく終了しました。

僧侶といえども生身の人間。寒老百日間の想像を絶する苦修練行に耐え、宗祖日蓮大聖人直伝の幣束相承の允許を伝授され成満を迎えられたことは、私たち檀信徒にとっても大きな喜びであり誇りであります。

教樹上人には、これからも私達の悩み苦しみを受けとめよき理解者となり、一人一人が信心強い我が身となるようお導き頂きたく念ずる次第です。益々のご活躍と性蓮寺隆盛のためご尽力されますよう祈念いたします。

日蓮宗では四月より『立正安国・お題目結縁運動』が実動する運びです。私達檀信徒も僧侶の皆様と「異体同心」となり、現在の殺伐とした世の中を、安穏な心、安穏な社会を築くため宗門運動を実践するのが、日蓮大聖人の法華経の教えではないでしょうか。ご成満を迎えられた各上人のご健勝にてますます布教活動に邁進されますようご祈念申し上げ、私達も菩提寺の発展と信心を養うため微力ながら努力する所存であります。



「埼玉県法華和讃

奉詠会の歩み」

会長 瀬川ひろのさん

埼玉県法華和讃奉詠会は、平成六年五月、初代会長釋蓮寺先代ご住職篠原泰深上人のご尽力と宗務所のご協力により発足しました。

平成十年には新会長に関口照智上人が就任されました。研修日には、いつもにこやかな笑顔でご法話をなさり拝聴させていただく私達も心が和み自然と練習にも熱が入りました。

平成十三年からは会員による運営に移行され、三好美津子さまが会長に就任されました。



顧問に関口照智上人、相談役に坂爪快要上人、阿部是弘上人にお受け頂き、常に温かいご指導ご協力を頂きました。

平成十八年からは微力者ですが私が会長の大役を承りました。また相談役でございました阿部上人が退任なされましたので行田市本法寺の須加晃正上人が後任とおなり頂きました。

さて和讃会では主に川越本応寺さまを会場に二ヶ月に一回の割合で研修を行っております。

平成六年から指導者講習会、護法団参、会報発行、奉詠旅行、全国和讃発表大会、お会式出仕、大祈禱会出仕、平成九年には立教開宗七五〇中央大会横浜アリナ出仕、平成十三年は立教開宗七五〇埼玉大会加須バストラ坊本行寺さま、大宮顕徳寺さま、東松山神戸妙昌寺さまです。

平成十六年から埼玉県修法師会大祈禱会に出仕させて頂いておりますが、和讃奉詠を大祈禱で老百日の修行を無事成満された、お上人さま方と世界平和祈念国土安穩の奉詠が出来ますことは身と口と心に深く感動を得る法悦でございます。

日蓮大聖人の報恩に感謝し異体同心で奉詠する和讃はとって

も素晴らしい事だと実感しております。妙法を流布する一つの方法として和讃会が絶えることなく益々発展し和讃の心が多くの人達に浸透し「老若男女」子から孫へと自然と奉詠出来ますことを念願しております。それには各方面のお上人さま又寺庭婦人の方々のお力添えを頂きまして和讃奉詠会の輪が広がりますことを念願し私達会員も日々努力して参りたく決意を新たに致すものであります。



和讃にご興味のおありの方は  
電話〇四八・五二二・五二二二  
瀬川会長宅までご連絡下さい。

編集後記

▽「二月は逃げる」といわれますように、ついこの間年が明けたと思っていたのにもう三月を迎えました。

▽今号では、大荒行成満をお迎えになつたご寺院や檀徒の方にご協力を頂きました。紙面の関係上、全文掲載をすることが出来ず玉稿を編集させて頂きましたことお詫び申し上げますと共に、関係各聖、各位に心から御礼申し上げます。以前お聴きしたご法話で、荒行僧のお姿は佐渡ご流罪のお祖師さまのお姿だと教えて頂きました。厳寒の中で粗食と読経三昧の寒老百日のご精進の尊形を目の当たりにいたしますと、自然に手が合わりお題目が口をつきます。

▽あらゆる自然の生命が若々しく萌えあがる春彼岸の時期を迎えました。自然をたたえ、生命をいづくしみ、今日ある自分を育んでくれた数多くのご先祖さまを偲びましょう。そして私たち自身の生活をお上人さまのお導きを得て、お釈迦さま、お祖師さまのみ教えをもとに見つめ直したいと思えます。

編集子